

## 2023年12月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年2月29日

上場会社名 琉球アスティーダスポーツクラブ株式会社 上場取引所 東  
コード番号 7364 URL <https://ryukyuasteeda.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 早川 周作  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 CFO 管理本部長 (氏名) 田野口 浩太 TEL 098(851)8701  
定時株主総会開催予定日 2024年3月29日 配当支払開始予定日 —  
発行者情報提出予定日 2024年3月29日  
決算補足説明資料作成の有無 : 無  
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年12月期の連結業績(2023年1月1日~2023年12月31日)

## (1) 連結経営成績

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期	579	15.8	△95	—	△94	—	△95	—
2022年12月期	500	5.3	△213	—	△212	—	△265	—

(注) 包括利益 2023年12月期 △95百万円(—%) 2022年12月期 △265百万円(—%)

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円銭	円銭	%	%	%
2023年12月期	△59.06	—	△40.1	△29.2	△16.5
2022年12月期	△177.10	—	△185.7	△50.3	△42.7

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円銭
2023年12月期	286	△238	△83.3	△147.26
2022年12月期	351	△142	△40.7	△88.20

(参考) 自己資本 2023年12月期 △238百万円 2022年12月期 △142百万円

## (3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2023年12月期	△62	7	△29	103
2022年12月期	△149	△22	134	187

## 2. 配当の状況

	年間配当金			配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産 配当率 (連結)
	中間期末	期末	合計			
	円銭	円銭	円銭	百万円	%	%
2022年12月期	0.00	0.00	0.00	0.00	—	—
2023年12月期	0.00	0.00	0.00	0.00	—	—
2024年12月期	0.00	0.00	0.00		—	

3. 2024年12月期の連結業績予想（2024年1月1日～2024年12月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通 期	722	24.6	26	－	23	－	19	－	12.21

※注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動 : 有  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 除外 1社 アスティーダマーケティング株式会社

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数

2023年12月期	1,619,700株	2022年12月期	1,619,700株
2023年12月期	－株	2022年12月期	－株
2023年12月期	1,619,700株	2022年12月期	1,498,075株

※決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報、及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、決算短信（添付資料）3ページの「1. 経営成績等概況（4）今後の見通し」をご覧ください。

## ○ 添付資料の目次

1. 経営成績等の概況.....	2
(1) 当期の経営成績の概況.....	2
(2) 当期の財政状態の概況.....	2
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況.....	3
(4) 今後の見通し.....	3
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方.....	4
3. 連結財務諸表及び主な注記.....	5
(1) 連結貸借対照表.....	5
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書.....	7
(3) 連結株主資本等変動計算書.....	9
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書.....	11
(5) 連結財務諸表に関する注記事項.....	13
(継続企業の前提に関する注記).....	13
(セグメント情報).....	13
(1株当たり情報).....	16
(重要な後発事象).....	16
4. その他.....	16

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度におけるわが国の経済は、緩やかに回復傾向にあります。新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが2類相当から5類感染症に変更されたことにより行動制限がなくなり、国内消費はコロナ前の水準に向け徐々に回復しつつあります。一方で、ロシアのウクライナ侵攻の長期化に伴う原材料価格の高騰や、急速な円安が助長する物価高、人手不足による人件費の増加が続くなど、依然として不透明な状況であります。飲食業界全体もこのような経済環境を反映し、客数増加による売上増加の一方、原価、人件費等の経費が増加するなど、依然として厳しい外部環境にあります。

当社グループは、このような環境下においても、「夢への道を拓き、明日を照らす光となる。」というミッションのもと、「沖縄から世界へ」を合言葉に各事業を展開してまいりました。

当社グループの業績におきましては、当連結会計年度における売上高は579,196千円(前年同期比115.8%)、営業損失は95,815千円(前年同期は営業損失213,307千円)、経常損失は94,531千円(前年同期は経常損失212,981千円)、親会社株主に帰属する当期純損失は95,660千円(前年同期は親会社株主に帰属する当期純損失265,304千円)となりました。

セグメントごとの経営成績は、次の通りであります。

#### (スポーツ関連事業)

スポーツ関連事業におきましては、Tリーグ2022-2023シーズンにおいて、琉球アスティーダが2年ぶり2回目のTリーグ優勝を果たしました。7月に開幕しましたTリーグ2023-2024シーズンにおける琉球アスティーダの12月末時点の成績は2位、九州アスティーダの成績は6位となっております。Tリーグの認知度も向上する中で、スポンサーやファンの関心の高まりもあり、売上高は299,463千円(前期比110.1%)、セグメント損失は19,883千円(前年同期はセグメント損失802千円)となりました。

#### (飲食事業)

飲食事業におきましては、昨年度において不採算店舗の撤退を進めた一方、秋田県に沖縄県外初のフランチャイズ店舗をオープンした結果、店舗数は直営が5店舗、フランチャイズが4店舗となりました。屋外でのマスク着用や会食における人数制限の緩和など、飲食業界における経済活動は徐々に回復傾向にある中、前年度における事業撤退の影響もあり、売上高は192,775千円(前期比83.7%)、セグメント損失は8,976千円(前期はセグメント損失59,192千円)となりました。

#### (アスティーダサロン事業)

2023年5月より運営を開始しました、会員制経営者コミュニティサロン「アスティーダサロン」事業におきましては、会員数183社となりました。以上の結果、売上高は86,958千円、セグメント利益は57,095千円となりました。

#### (その他事業)

その他事業におきましては、当社グループが行っているマーケティング事業及びアスリートマネジメント事業を計上しておりますが、マーケティング事業を運営しておりましたアスティーダマーケティング株式会社につきましては、2023年9月29日に保有株式のうち発行済株式の50%にあたる株式を譲渡し、同日に連結の範囲から除外しております。また、アスリートマネジメント事業を運営しておりましたAMG株式会社につきましても、2023年11月25日をもって解散の登記を行っております。以上の結果、セグメント損失は1,225千円となりました。

### (2) 当期の財政状態の概況

#### (ア) 資産

当連結会計年度の総資産は、前連結会計年度末(以下、「前期末」)に比べ65,028千円減少の286,158千円

となりました。流動資産は、前期末に比べ54,090千円減少の260,585千円となり、これは、売掛金及び契約資産が26,140千円増加した一方で現金及び預金が84,527千円減少したことによります。固定資産は25,572千円となり、前期末に比べ10,937千円減少し、これは主に有価証券の償還による減少5,000千円、長期前払費用の減少4,371千円によるものです。

#### (イ) 負債

当連結会計年度の負債合計は524,270千円となり、前期末に比べ31,026千円増加しました。流動負債は、355,309千円となり、前期末に比べ65,378千円増加となりました。これは主に、買掛金が11,205千円、未払金が30,973千円増加したことによります。固定負債は168,961千円となり前期末に比べ34,352千円減少しました。これは主に長期借入金が29,352千円減少したことによります。

#### (ウ) 純資産

当連結会計年度の純資産は△238,112千円となり、前期末に比べ96,055千円減少しました。これは主に親会社に帰属する当期純損失を計上したことによります。

### (3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の期末残高は、前期末に比べ84,527千円減少し、103,424千円となりました。

当連結会計年度末における各キャッシュ・フローの状況は次の通りであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により使用した資金は 62,685 千円（前期は 149,277 千円の支出）となりました。これは主に税金等調整前当期純損失 92,693 千円を計上したほか、売掛金及び契約資産の増加額 29,947 千円があった一方で、仕入債務の増加額 11,205 千円、未払金の増加額 30,973 千円があったことによるものであります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により得た資金は 7,610 千円（前期は 22,987 千円の支出）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出 4,942 千円があった一方で、有価証券の償還による収入 5,000 千円、敷金の返還による収入 2,904 千円及び、有形固定資産の売却による収入 3,390 千円を計上したことによるものであります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により使用した資金は 29,452 千円（前期は 134,628 千円の収入）となりました。これは、長期借入金の返済による支出 27,452 千円、社債の償還による支出 2,000 千円があったことによるものであります。

### (4) 今後の見通し

今後の見通しにつきましては、国際情勢不安や米国をはじめとする物価変動や各国の中央銀行による政策金利の引き上げの懸念等により、わが国の経済の先行きについては依然として不透明な状況にあります。

このような環境の中、スポーツ関連事業におきましては、2023年7月に開幕したTリーグ2023-2024シーズンにおいて、琉球アスティーダは連覇を果たすべくチームは活動しております。

飲食事業におきましては、経済状況の緩やかな回復傾向の現状を捉え、客数増加による売上の増加を果たすべく、店舗QSCの改善による店舗運営レベルの更なる向上、新ブランド・特撰メニューの導入、季節に応じたキャンペーン企画を実施することで集客を図ってまいります。

アスティーダサロン事業におきましては、毎月の勉強会及び会員同士の交流会の開催など、参加メンバーの事業成長を支援する様々な施策を充実させることで、会員数の増大を図ってまいります。

以上のような取り組みを推進するとともに、わが国の経済活動が正常化することで、業績は改善に向かうものと考えております。

## 2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社は、日本基準により作成する財務諸表が当社の経営成績、財政状態及びキャッシュ・フローの状況を示す上で適切であると判断していることなどから、当面は日本基準に基づいて財務諸表を作成する方針であります。なお、国際財務報告基準（I F R S）の適用につきましては、今後の事業展開や国内外の動向などを踏まえた上で検討を進めていく方針であります。

### 3. 連結財務諸表及び主な注記

#### (1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	187,951	103,424
売掛金及び契約資産	68,066	94,206
棚卸資産	3,694	1,877
未収入金	-	27,537
前払費用	51,683	37,066
その他	4,034	1,571
貸倒引当金	△754	△5,098
流動資産合計	314,676	260,585
固定資産		
有形固定資産	159	1,044
投資その他の資産		
投資有価証券	15,000	10,023
長期前払費用	12,475	8,103
その他	13,158	14,490
貸倒引当金	△4,282	△8,089
投資その他の資産合計	36,351	24,528
固定資産合計	36,510	25,572
繰延資産	-	-
資産合計	351,186	286,158

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	61,786	72,992
短期借入金	30,000	30,000
1年内返済予定の長期借入金	27,452	29,352
1年内償還予定の社債	—	3,000
未払金	50,939	81,913
未払法人税等	4,288	2,461
契約負債	107,405	114,227
その他	8,057	21,362
流動負債合計	289,930	355,309
固定負債		
社債	5,000	—
長期借入金	198,313	168,961
その他	—	—
固定負債合計	203,313	168,961
負債合計	493,243	524,270
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	175,490	175,490
資本剰余金	136,547	136,547
利益剰余金	△454,892	△550,549
株主資本合計	△142,855	△238,512
新株予約権	400	400
非支配株主持分	398	—
純資産合計	△142,057	△238,112
負債純資産合計	351,186	286,158



(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書  
(連結損益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
売上高	500,028	579,196
売上原価	299,471	331,089
売上総利益	200,556	248,107
販売費及び一般管理費	413,864	343,922
営業損失(△)	△213,307	△95,815
営業外収益		
受取利息	101	301
受取賃貸料	1,365	—
利子補給金	657	1,048
その他	3,431	4,336
営業外収益合計	5,555	7,084
営業外費用		
支払利息	2,804	3,700
株式交付費償却	1,603	—
その他	820	703
営業外費用合計	5,228	4,403
経常損失(△)	△212,981	△94,531
特別利益		
固定資産売却益	4,919	2,500
関係会社株式売却益	—	1,397
特別利益合計	4,919	3,897
特別損失		
減損損失	23,299	1,394
固定資産売却損	—	665
店舗閉鎖損失	25,423	—
特別損失合計	48,722	2,059
税金等調整前当期純損失(△)	△256,784	△92,693
法人税、住民税及び事業税	3,478	3,283
法人税等調整額	5,731	—
法人税等合計	9,209	3,283
当期純損失(△)	△265,994	△95,976
非支配株主に帰属する当期純損失(△)	△690	△316
親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△265,304	△95,660

(連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
当期純損失 (△)	△265,994	△95,976
包括利益	△265,994	△95,976
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	△265,304	△95,660
非支配株主に係る包括利益	△690	△316

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)

(単位:千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	118,250	80,355	△155,355	43,249
会計方針の変更による累積的影響額			△34,232	△34,232
会計方針の変更を反映した当期首残高	118,250	80,355	△189,588	9,017
当期変動額				
新株の発行	57,240	57,240		114,480
親会社株主に帰属する当期純損失 (△)			△265,304	△265,304
連結子会社株式の追加取得による持分の増減		△1,380		△1,380
連結子会社株式の売却による持分の増減		332		332
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)				—
当期変動額合計	57,240	56,192	△265,304	△151,872
当期末残高	175,490	136,547	△454,892	△142,855

	新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
当期首残高	400	2,470	46,119
会計方針の変更による累積的影響額			△34,232
会計方針の変更を反映した当期首残高	400	2,470	11,887
当期変動額			
新株の発行			114,480
親会社株主に帰属する当期純損失 (△)			△265,304
連結子会社株式の追加取得による持分の増減			△1,380
連結子会社株式の売却による持分の増減			332
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)		△2,072	△2,072
当期変動額合計	—	△2,072	△153,944
当期末残高	400	398	△142,057

当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)

(単位: 千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	175,490	136,547	△454,892	△142,855
当期変動額				
親会社株主に帰属する当期純損失 (△)			△95,660	△95,660
連結範囲の変更による増減			3	3
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)				
当期変動額合計	—	—	△95,656	△95,656
当期末残高	175,490	136,547	△550,549	△238,512

	新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
当期首残高	400	398	△142,057
当期変動額			
親会社株主に帰属する当期純損失 (△)			△95,660
連結範囲の変更による増減			3
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)		△398	△398
当期変動額合計	—	△398	△96,055
当期末残高	400	—	△238,112

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純損失(△)	△256,784	△92,693
減価償却費	1,279	513
減損損失	23,299	1,394
店舗閉鎖損失	25,423	—
固定資産売却益	△4,919	△2,500
固定資産売却損	—	665
関係会社株式売却益	—	△1,397
長期前払費用償却額	531	4,371
のれん償却額	10,853	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	5,036	8,152
株式交付費償却額	1,603	—
受取利息及び受取配当金	△101	△301
支払利息	2,804	3,700
売上債権及び契約資産の増減額(△は増加)	35,096	△29,947
棚卸資産の増減額(△は増加)	633	1,816
前払費用の増減額(△は増加)	6,519	14,298
仕入債務の増減額(△は減少)	9,043	11,205
未払金の増減額 (△は減少)	△36,740	30,973
契約負債の増減額(△は減少)	3,725	6,821
未払消費税等の増減額(△は減少)	11,219	7,507
その他	12,282	△20,507
小計	△149,194	△55,928
利息及び配当金の受取額	1	401
給付金の受取額	7,000	—
利息の支払額	△3,244	△3,645
法人税等の支払額	△3,839	△3,512
営業活動によるキャッシュ・フロー	△149,277	△62,685
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△8,831	△4,942
有形固定資産の売却による収入	4,966	3,390
有価証券の取得による支出	△15,000	—
有価証券の償還による収入	—	5,000
連結範囲の変更を伴う関係会社株式の売却による収入	—	1,256
長期前払費用の取得による支出	△2,292	—
敷金の差入による支出	△1,831	—
敷金の返還による収入	—	2,904
投資活動によるキャッシュ・フロー	△22,987	7,610
財務活動によるキャッシュ・フロー		
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△2,880	—
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の売却による収入	450	—
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△20,000	—
長期借入れによる収入	60,000	—
長期借入金の返済による支出	△17,126	△27,452

琉球アスティーダスポーツクラブ株式会社 (7364)  
2023年12月期 決算短信 [日本基準] (連結)

社債の償還による支出	—	△2,000
長期未払金の返済による支出	△192	—
株式の発行による収入	114,377	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	134,628	△29,452
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△37,636	△84,527
現金及び現金同等物の期首残高	225,588	187,951
現金及び現金同等物の期末残高	187,951	103,424

## (5) 連結財務諸表に関する注記事項

### (継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、前連結会計年度に営業損失 213,307 千円、経常損失 212,981 千円、親会社株主に帰属する当期純損失 265,304 千円及び営業キャッシュ・フローのマイナス 149,277 千円を計上し、当連結会計年度においても営業損失 95,815 千円、経常損失 94,531 千円、親会社株主に帰属する当期純損失 95,660 千円を計上し、営業キャッシュ・フローは 62,685 千円の支出となりました。その結果、当連結会計年度末において 238,112 千円の債務超過となりました。

これにより、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループは、当該状況を解消すべく、2023年5月より新規事業として経営者の悩みを解決し、参加メンバーの事業成長を支援するスポーツを軸とした会員制経営者コミュニティ「アスティーダサロン」の運営を行っており、その結果、当連結会計年度末日時点における有料会員数は183社となりました。当事業におけるサービスをさらに拡充させ、会員数の増加と顧客満足度の向上を図ることにより、経営基盤を強固にしております。

さらに、アスティーダサロン事業の運営による営業損益及び営業キャッシュ・フローの改善に伴い、琉球アスティーダ、九州アスティーダ両チーム運営の投資余力を生み出し、ビジネス上の相乗効果を図ることで、スポンサーやファンの基盤をより強固なものにしてまいります。

しかしながら、上記の対応策等は実施途上であること、特にアスティーダサロン事業の運営におきましては、将来の売上見込についての予測を含んでおり、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、連結計算書類は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を連結計算書類には反映しておりません。

### (セグメント情報)

#### 1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象としているものであります。

当社は、「スポーツ関連事業」及び「飲食事業」に加え、2023年5月に立ち上げた「アスティーダサロン事業」の3つを報告セグメントとしております。

セグメント区分	主要業務
スポーツ関連事業	卓球事業（スポンサー収入、卓球教室収入、グッズ収入、ファンクラブ収入、チケット収入、クラブトークン収入、Tリーグ配分金・運営受託収入等）、その他
飲食事業	バル業態を中心とした飲食店の運営、イベントへの参加、フランチャイズ本部
アスティーダサロン事業	会員制経営者コミュニティサロンの運営

#### 2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表を作成するために採用される会計方針に準拠した方法であります。報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報  
前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)

(単位: 千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	調 整 額 (注) 2	連結財務諸 表計上額 (注) 3
	スポーツ 関連事業	飲食事業	計			
売上高						
一時点で移転される財又は サービス	76,246	227,400	303,646	—	—	303,646
一定の期間にわたり移転され る財又はサービス	192,660	2,825	195,486	895	—	196,381
顧客との契約から生じる収益	268,906	230,225	499,132	895	—	500,028
その他の収益	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	268,906	230,225	499,132	895	—	500,028
セグメント間の内部売上高又は 振替高	3,272	—	3,272	—	△3,272	—
計	272,179	230,225	502,405	895	△3,272	500,028
セグメント利益 (△は損失)	△801	△59,192	△59,994	22	△153,009	△212,981
セグメント資産	118,968	42,489	161,457	3,873	185,856	351,186
その他項目						
減価償却費	164	1,075	1,239	—	39	1,279
のれんの償却額	—	10,853	10,853	—	—	10,853
有形固定資産及び無形固定資産 の増加額	1,050	7,781	8,831	—	—	8,831

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、当社グループが行っているマーケティング事業及びアスリートマネジメント事業を含んでおります。
2. 調整額は、以下のとおりであります。
- (1) セグメント損失の調整額△153,009千円は、報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- (2) セグメント資産の調整額185,856千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない本社の現金及び預金等であります。
- (3) 減価償却費の調整額39千円は、本社資産に係る減価償却費であります。
3. セグメント損失は、連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。



当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	調 整 額 (注) 2	連結財務 諸表 計上額 (注) 3
	スポーツ 関連事業	飲食事業	アス ティーダ サロン 事業	計			
売上高							
一時点で移転される財又はサービス	74,138	192,175	30,119	296,433	—	—	296,433
一定の期間にわたり移転される財又はサービス	225,324	600	56,838	282,763	—	—	282,763
顧客との契約から生じる収益	299,463	192,775	86,958	579,196	—	—	579,196
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	299,463	192,775	86,958	579,196	—	—	579,196
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	299,463	192,775	86,958	579,196	—	—	579,196
セグメント利益 (△は損失)	△19,884	△8,976	57,095	28,234	△1,225	△122,824	△95,815
セグメント資産	115,423	27,964	39,221	182,609	2,681	100,867	286,158
その他項目							
減価償却費	102	411	—	—	—	—	513
のれんの償却額	—	—	—	—	—	—	—
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	—	4,942	—	—	—	—	4,942

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、当社グループが行っているマーケティング事業及びアスリートマネジメント事業を含んでおります。

2. 調整額は、以下の通りであります。

(1) セグメント損失の調整額△122,824千円は、報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(2) セグメント資産の調整額100,867千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない本社の現金及び預金等であります。

3. セグメント損失は、連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
1株当たり純資産額	△88.20	△147.26
1株当たり当期純損失(△)	△177.10	△59.06

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純損失の算定上の基礎は以下の通りであります。

項目	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
親会社株主に帰属する当期純損失(△)(千円)	△265,304	△95,660
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純損失(△)(千円)	△265,304	△95,660
普通株式の期中平均株式数(株)	1,498,075	1,619,700
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	—	—

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

4. その他

該当事項はありません。